

# 2013 年度 センター試験 数学 ・ 数学 A (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：38 問
難易度の変化（対昨年）	難化      やや難化	変化なし      やや易化      易化
問題の分量（対昨年）	増加	変化なし      減少
出題分野の変化	あり	なし
出題形式の変化	あり	なし
新傾向の問題	あり	なし
<p><b>総評</b>          昨年と比較して、難易度が上がった。出題の分量・形式については例年通りであるが、第 3 問がやや難化した。三角比に関する問題が減少し、代わりに図形の性質に関する問題が増えた。全体的にも図形を題材にした問題がこれまでにない多くなったため、戸惑った受験生もいただろう。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	〔1〕平方根の計算 〔2〕論理	20 点	〔1〕基本的な平方根の計算である。誘導も丁寧であるから、絶対に落とせない。 〔2〕図形を題材にした命題の基本問題である。(2)は、昨年同様に対偶の性質を用いると解きやすい。
第 2 問	2 次関数	25 点	昨年同様に、2 次関数に関する幅広い知識を問う標準問題である。前半が 2 次関数の最大・最小、後半が 2 次関数の決定問題と平行移動。問題文から直線上を動く点を正確に読み取ることが出来たかがポイントになる。
第 3 問	図形と計量 平面図形	30 点	前半は、直角三角形に関する問題である。OD の長さは三角形の相似を用いると解きやすい。なお、2010 年度にも直角三角形を題材にした出題がある。後半は、昨年に引き続き 2 円の位置関係に関する問題である。前半・後半を通して、図形の性質に関する内容が多く、やや難しくなった。
第 4 問	場合の数と確率	25 点	前半は、数字を並べてできる自然数の個数を求める基本問題である。後半は、条件を満たす得点の期待値を求める基本問題である。得点が 1 点となる確率を求める際には、前半の結果を用いるとよいだろう。